Ｎｏ．４３３【２０２０年１１月２７日配信】
三内丸山遺跡でも出土している黒曜石（担当：児玉）

こんにちは。文化財課の児玉です。コロナ禍にもかかわらず異例の大ヒットを記録している劇場版「鬼滅の刃（きめつ やいば） 無限列車編」。10 月 16 日の公開から 11 月 23 日までの 39 日間で興行収入 259 億円を突破し、現時点で邦画と洋画を含む国内興行収入ランキング 3 位となっています。「鬼滅の刃」とは、主人公・竈門炭治郎（かまどたんじろう）が「鬼殺隊（きさつたい）」という組織に入隊し、鬼へと変貌した妹・禰豆子（ねずこ）を人間に戻すため、「日輪刀」という刀をもって凶悪な鬼との戦いに身を投じていく物語です。この「日輪刀」ですが、別名「色変わりの刀」とも呼ばれ、持ち主によって刀の色が変わり、色ごとに自分の適性（水の呼吸・炎の呼吸など）がわかる特異な刀です。

主人公の炭治郎の刀は、稀有な黒色となっていますが、漫画の中で黒色の刀について「黒曜石のような漆黒」の日輪刀と表現されるシーンがあります。黒曜石とは、マグマが特殊な条件で冷えて固まった時にできた岩石です。黒曜石の岩石を割ると非常に鋭い断面が得られることから、旧石器時代から刃物として使われており、その切れ味の鋭さから現在でも海外では眼球や神経等の手術で使われることもあるようです。

また、ガラスとよく似た性質をもち、太陽にかざすと薄い部分は光を通し、キラキラと美しく光ります。私には、鬼滅の刃の主人公が持つ刀が、光を透かしながら黒く輝く黒曜石に見えてしまうのですが、そうした細かい設定まで考えているのであろう作者の吾峠呼世晴（ごとうげこよはる）氏の目のつけどころに博識さと天賦の才を感じます。

さて、この黒曜石ですが、現在、日本では 70 ヵ所をこえる原産地が知られています。県内では、深浦や小泊、つがる市出来島などで産出しますが、青森市内でも戸門や鶴ヶ坂といった西部地区で原産地が確認されています。

また、本市の三内丸山遺跡でも数多くの黒曜石が出土しています。黒曜石に含まれる元素の含有量は、産地ごとに特徴があるので、各産地の岩石の蛍光Ｘ線の波長と強度を調べることで、遺跡から出土した黒曜石の原産地の推定が可能となります。三内丸山遺跡では、縄文前期から中期に属する黒曜石の石器や破片について、蛍光Ｘ線分析による産地同定が実施されています。その結果、原産地を青森県内とする黒曜石は、深浦産が僅かであったのに対し、出来島産がほとんどでした。これら青森県産の黒曜石は、良質なものは少なく、また小型のものが多くみられるようです。

遠方では、十勝や白滝（しらたき）などの北海道産が多く確認されています。石槍やナイフなどの大型品が多く、北海道で作られた完成品が持ち込まれたものと考えられます。このほか、秋田県男鹿産、岩手県雫石産、山形県月山産、長野県霧ケ峰産が少量みられます。

遠方の黒曜石は、県内産と比べて良質で大型であり、切れ味の鋭さのみならず、その美しさや大きさなどにも縄文人は価値を見出すなどして、東日本の各地と広域的な交流を行っていたものと思われます。